



# 名古屋の偉人伝

No.8

大口 六兵衛(おおぐち ろくべえ)の巻

ここがスゴイ！

名古屋におけるジャーナリストの草分け！

劇作家でもあり情歌(=じょうか都々逸とどいつ)宗匠でもあった

多芸多才な芸能通！！



大口六兵衛(当館所蔵写真)

こんな人生を送ってきました(経歴)

弘化4(1847)年3月22日生～明治39(1906)年9月18日没。

名古屋門前町(現在の中区門前町)の醴あまざけ屋「三国一」に生まれる。三国一とは富士山のこと、よって雅号は不二ふじの廻家高根やたかねという。少年時から近所の芝居小屋で遊び、俳諧に熱中しつつ、狂言作家になることを夢見ていた。

長じて『愛知日報』、『青柳新紙』、『愛知日々新聞』、『名古屋絵入新聞』等の新聞に関わり大活躍。また、滑稽雑誌『転愚てんぐ叢談そうだん』の発行や『書拔大福帳』の編集も行い、自作の脚本・小説・川柳等を掲載。さらに、情歌の結社である掬水社きくすいしゃを率いたり、伊勢門水らと共に同好の士の集まる洒落部しゃらくぶ(後の御洒落会おしゃらくかい)を起こしたりして芸能の発展にも寄与した。

もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

「名古屋の名物男 大口高根翁」(『日本及日本人』228-230号 大橋青波／著)

『名古屋芸能史 後編』(尾崎久彌／著 名古屋市教育委員会 1971 p. 42-50)

『名古屋明治文学史』(名古屋近代文学史研究会／編 名古屋市教育委員会 1975 p. 20-36)

『伊勢門水翁遺稿 御洒落伝』(伊勢門水／著 御洒落伝刊行会 1960)